

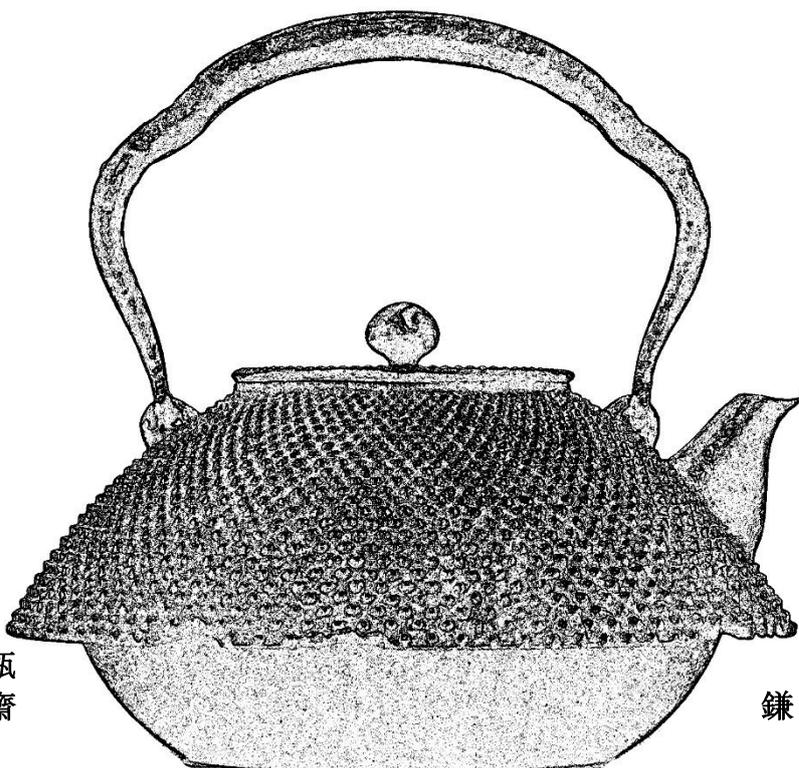
れき 民

# となん歴民だより vol.59

Morioka tonan history and folklore museum

令和元年6月30日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228



霰文尾垂形鉄瓶  
金澤鶴齋

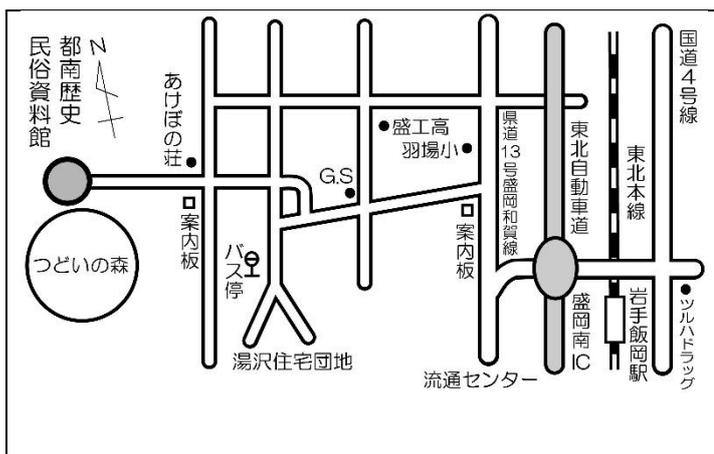
鎌田隆氏蔵

是非ご来館ください。お待ちしております。

## — もくじ —

- 市民参加展「鎌田コレクション 南部鉄器展」のお知らせ
- かけはしの会通信
- 資料は語る(59)
- 盛岡市所在  
指定・登録文化財紹介(59)
- となんの先人②

## MAP☆ACCESS



## ○利用案内

### 開館時間

午前9時から  
午後4時まで

### 入館料

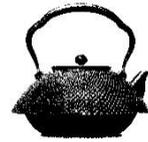
無料

### 休館日

月曜日  
(休日に当たるときは、直近の平日)、年末年始



市民参加展 鎌田コレクション



# 南部鉄器展開催のお知らせ

盛岡市都南歴史民俗資料館では、市内在住の方々が集めたコレクションを展示公開する「市民参加展」を実施して参りました。今回のテーマは「南部鉄器」です。

## ●本展の概要

本展では、鎌田隆氏の多種多様にわたるコレクションのうち、鉄瓶を主とした南部鉄器 39 点を展示いたします。小泉仁左衛門、鈴木盛久、有坂家、3代高橋萬治、金澤鶴齋のほか、盛岡の名工たちの作品が多数ございます。

あわせて、盛岡の南部鉄器の歴史と現状を写真やパネルでご紹介しています。

## ●本展のみどころ

鎌田氏所蔵の南部鉄器コレクションを一堂に会して展示するのは、今回が初めてです。そのほとんどは素朴なものであり、華美な作品は多くありませんが、職人の丁寧な仕事を見て取ることができます。

ひとつの鉄瓶にも、沢山の見所があります。本体の形、鉷（持ち手）の形、口の形、蓋のつまみの形、文様などです。文様が無い鉄瓶でもひとつひとつの肌の様子は異なっていますので、質感や色を楽しむことができます。本展では、様々な鉄瓶が並んでいますので、じっくり見比べて鑑賞する楽しみがございます。

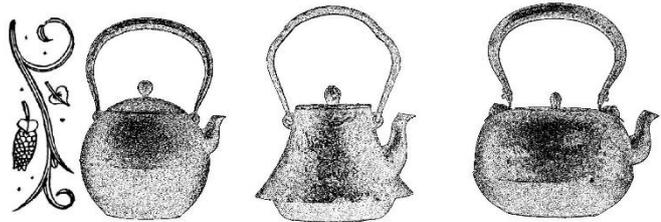


アルミ鉄瓶  
(鎌田隆氏蔵)

本展では、珍しい作品も展示しています。

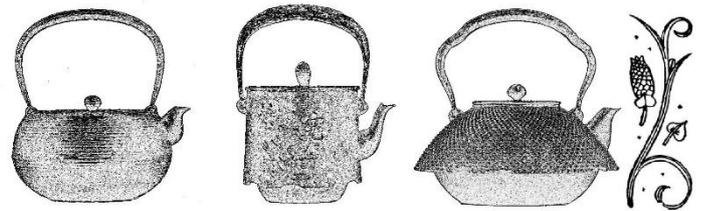
左の「アルミ鉄瓶」は、形は鉄瓶そっくりですが、アルミニウムで作られています。これは、日中戦争に際し発布された鉄統制令のため、鉄資源の利用が制限された時に、鉄瓶の代替品として研究・製造が進められたものです。南部鉄瓶の苦難の歴史を今に伝える物証です。

また、「花瓶」は、鑄金家鈴木貫爾（14代鈴木盛久）の作品ですが、これと同じ形で色違いの作品「青い花瓶」が岩手県立美術館に収蔵されています。詳細については調査が必要ですが、習作として作られたものと推測されます。



鎌田コレクション

# 南部鉄器展



令和元年 6月8日(土)～8月4日(日)

## ●南部鉄器の歴史

南部鉄器は盛岡を代表する伝統工芸品として人々に愛されてきました。その歴史は古く、17世紀に南部氏が釜師や鋳物師を招き庇護育成したことに始まります。明治・大正期には、博覧会や共進会での度重なる受賞、皇太子の東北巡啓の際の鋳造実演などで全国的に注目を浴びました。たくさんの職人たちが切磋琢磨し研究改良に励み、優品を数多く生み出し隆盛を誇りました。昭和期には戦争の影響、生活様式の変化により衰退してしまいましたが、たえまない工夫改良により再び注目を集め、現在では国内のみならず海外でもたくさんの愛好家を獲得しています。



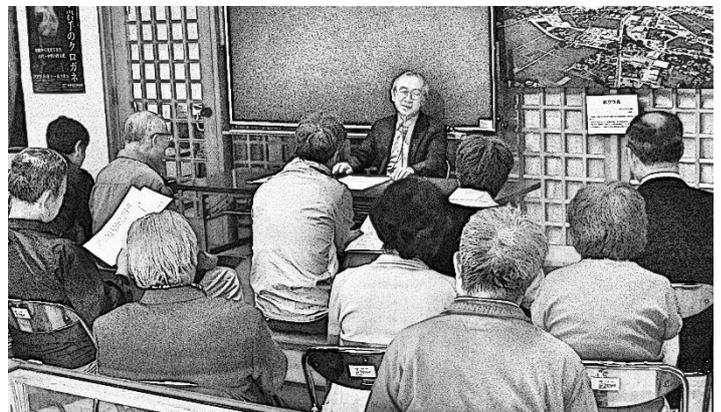
## 「となん・かけはしの会」通信



### さわ ●茶話会

令和元年度第一回茶話会は、6月8日（土）に開催されました。講師に一般財団法人新渡戸基金理事長の藤井茂氏をお招きし、岩手出身の物理学者田中館愛橘の逸話をお話いただきました。

60歳定年制が導入されたきっかけなどのエピソードをもとに、田中館の業績や人柄、さらに田中館をとりまく人々にまつわる興味深いお話を伺うことができました。藤井氏の温かく軽妙な語り口から次々と紡がれる逸話や豊富な知識に、会員の皆さんも熱心に聴き入っていました。先人から多くのことを学ぶことができる講座でした。この場をお借りし、藤井様に御礼申し上げます。



### ●会員募集

「となん・かけはしの会」は、都南歴史民俗資料館と共に地域の歴史を探究する会です。茶話会（講座）、史跡・文化財巡り、当館事業への協力等の活動をしています。

当会では、随時会員を募集しております。歴史好きな方、歴史を語りたい方、私たちとお話ししませんか。茶話会は会員外の方でもご参加いただけますので、まずはお気軽に足を運んでみてはいかがでしょうか。お席の準備がございますので、事前にご連絡をいただけますと幸いです。

なお、今年度より、さらなる会活動の充実を図るため、年会費1,000円を頂戴しております。ご了承くださいませ。お問い合わせは、盛岡市都南歴史民俗資料館 019-638-7228 まで。

### 「となん・かけはしの会」

#### 令和元年度活動予定

5月10日(金)	総会《終了》
6月8日(土)	第1回茶話会《終了》
7月13日(土)	第2回茶話会
9月14日(土)	第3回茶話会
10月中旬ころ	映画会
10月17日(木)	史跡・文化財巡り(北上市)
11月9日(土)	第4回茶話会
1月11日(土)	第5回茶話会
3月7日(土)	第6回茶話会



【カデ切り】

昔、米は換金作物であったため、一般家庭では多量に口にすることがなく、日常的には粟・稗等雑穀を混ぜた飯や、「カデ飯」を食していた。カデ飯とは、主食の量を増やすため、少量の米に大量の混ぜ物を加えて炊いたものである。混ぜ物には、平坦部では大根等、山間地方では芋や山菜、木の実、沿岸地方では海藻などが用いられた。

このカデ切りは、大根を細かく糞の目に刻む道具である。刻んだ大根は煮て米飯に毎日混ぜた。食材を刻む作業には相当な労力と時間を費していたが、この道具で軽減された。当館にもカデ切りが多数収蔵されており、普及率の高さをみる事ができる。

## 市指定史跡



高館(たかだて)古墳

飯岡山の東麓に張り出した丘陵の先端に位置します。現在は直径約6m、高さ約1.5mの墳丘1基のみが残存していますが、昔は6基ほどあったと伝えられています。

昭和8年(1933)の調査では須恵器、土師器、蕨手刀2振、切子玉、鉄製馬具(轡)が出土したといます。出土遺物から、奈良時代から平安時代初期にかけての築造と考えられています。現存する1基は、昭和42年(1967)に発掘調査が実施され、川原石と山石を小口積みして造られた石室に天井石が残存していたことが確認されています。

民有地につき、周囲からご覧ください。

参考文献：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』(2008)

## となんの先人② 吉田 耕一郎

吉田耕一郎は、明治二十三年(一八九〇)三月十九日、東見前の吉田家(屋号・長蔵堂)の吉田半十郎の長男として生まれた。同四十二(一九〇九)年に盛岡農学校(現岩手県立盛岡農業高等学校)を卒業して家業を継ぎ、農事の改良にとめ、特に苗代の改良に実績をあげた。

大正四年(一九一五)に二十六歳にして紫波郡会議員、その二年後に村会議員となった。同十二年(一九二三)以降は県議員を五期つとめた。昭和十三年(一九三八)五月には、見前村長となった。

特筆すべきことの一つは、大正十二年秋、当時菜園にあった盛岡農学校を誘致するために、隣接地一帯の農家の協力をまとめ、用地を提供したことである。同校は津志田の、現在岩手県立盛岡第四高等学校がある場所に移転した。

もう一つは、大正十五年(一九二六)設立の鹿妻穴堰耕地整理組合の組織者の一人として、開田事業を成功させた功績であり、矢巾町流通センター入口に顕彰碑が建てられた。

そのほかに見前村農会長、見前信用組合理事をつとめた。村政新興のために邁進していたが、見前村

長在職中の昭和十五年(一九四〇)八月に死去した。数えて五十一歳だった。



『御大典記念岩手縣名士肖像録』(同刊行会、昭和五年発行)

国立国会図書館デジタルコレクションより

参考文献：『都南村誌』(都南村誌編集委員会、一九七四)

『都南村の歴史』(岩手県文化財愛護協会、一九八八)

『吉田家(長蔵堂)伝記』(吉田長一郎、一九八七)

『岩手近代教育史』(岩手県教育委員会、一九八二)